

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4571900440
法人名	医療法人社団順養会
事業所名	グループホームマザーハウス
所在地	宮崎県東諸県郡国富町大字本庄4361-1 (電 話) 0985-75-1414
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 9 月 2 日

【情報提供票より】(21年 8月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員	18 人
職員数	18 人	常勤 17 人, 非常勤 1人, 常勤換算 17.5 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,540 円	その他の経費(月額)	600 円
敷 金	有(円)	☒ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4)利用者の概要(8月10日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低 79 歳	最高 102 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団順養会海老原病院	井上歯科医院
---------	----------------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは町内の中心部に位置し、同法人が経営する母体病院に隣接していて、健康管理や緊急時の対応ができる体制がとられている。利用者は「声なき声を聞き、見えないところを察する」という理念に守られて、一人ひとりの思いや暮らし方の希望にそった生活ができています。地域住民との信頼関係も良好であり、いろいろな催しものにも参加して地域に密着したホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	課題となっていた現状に即した介護計画の見直しとして、全職員が同じ視点で評価できるように独自の評価表の作成がなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義について、会議の中で報告がなされ昨年度の結果の改善も行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3か月に1回民生委員・区長・役場や家族を含めた運営推進会議があり、利用者の状況や行事の報告がなされている。町内の他の事業所と合同も行われており、情報交換や勉強会が行なわれている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	全職員で作るホーム便りが月1回出され、年2回の家族会があり利用者の暮らしぶりが家族に報告されている。また母体病院を中心としたアンケート調査が年1回あり、意見を出せる機会がもうけられより良い運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域の行事に参加したり小学生との交流もある。地域住民を対象とした認知症予防教室を開いたり、ほとんどの職員を地元から採用している。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	この地域で生まれ母体病院で守られてきた地域の人びとが安心して生活できるような理念がかかげてあり、利用者がその人らしく暮らせるよう心がけられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼や月1回の職員会議の中で理念を掘り下げた、具体的な話し合いがなされ日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており地域の行事に参加したり、小学生との交流も行われている。また地域住民を対象に認知症予防教室も開き地域に貢献している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義について会議の中で報告され、昨年度の結果の改善も行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町の特徴として他のグループホームと合わせた運営推進会議を3か月に1回開催して、利用者の状況や行事の報告、役場職員からは介護保険等の説明もあり家族や事業者間の情報交換がなされている。		合同の会議とは別に、ホーム独自の運営推進会議としてさらに充実して、2か月に1回開催できるよう取り組んでほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場担当者の運営推進会議参加がありホームの現状や課題について報告され、必要な設備の改善等にも繋がっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	全職員で作るホーム便りが月1回発行されている。家族の面会時には金銭預かり帳と領収書での出納確認がなされていて、日常の様子や健康状態が報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会が行なわれ、家族会の代表者が運営推進会議に出席している。母体の病院からの無記名のアンケート調査により利用者の満足度調査も行われ、意見の収集につとめている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や移動はほとんど行われていない。新しい職員の採用の場合は必ず指導者がついて馴染みの関係づくりに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内と母体の病院で研修があり、職員の参加も多い。復命書は全体の職員が共有できている。資格取得のための勉強会も行なわれ、職員を育てるシステムができている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同町内で他のグループホームと運営推進会議を通じた交流がなされている。職員の交換研修も当ホームが提案し本年度実施予定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に家を訪問し馴染みの関係をつくったり、見学やお試しをして本人が混乱を招かない工夫がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は常に人生の先輩であるという考え方を職員が共有しており、料理や生け花等を学んで感謝の気持ちを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で利用者の思いが汲み取れるように理念に添った関わりがなされている。		持続的に理念の遂行に努められ、一人ひとりの意志を推測してケアの質を高められる事を望みたい。また今後センター方式の活用等を検討される事を望みたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	自分らしく暮らせるように、本人家族の要望を大切にするために職員全体で検討会を行ない、介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月見直しがされている。独自の評価表が作成されていて職員全体が同じ視点でモニタリングできるようにになっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者家族の状況に応じ、通院や特別な外出対応がなされている。また緊急時の為のショートステイの受け入れ態勢も整えられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族が希望するかかりつけ医に受診している。受診時は職員や家族が付き添っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重症化した場合の対応について、契約時に方針を説明した同意書がある。本人や家族の意向を踏まえた看取りの実際が行われ、研修会で事例発表がされ共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人格を尊重した言葉かけや対応がなされている。個人情報の記録についても、他人の目にふれないように保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の流れは決まっているが、体調や気持ちに応じた関わりがなされていた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で作った野菜の皮むきをしたり、調理、食事の準備やかたづけ等みんなで楽しめる工夫がなされている。また職員も一緒に食事がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	気の合う利用者と一緒に入浴したり、希望すればいつでも入浴できるようになっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力が発揮できるような場面作りがされていて、感謝の言葉がかけられている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の買い物、月1回の外食、週末のドライブや菜園行き等が行われている。中央のホールに楽しそうなスナップ写真が掲示してある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害は充分理解している。日中、玄関の鍵はされていない。居室の鍵について、物取られ妄想のある利用者が安心して生活される為に、利用されることがある。		居室ドアの鍵穴について、混乱を招かないよう、みえない工夫など検討してほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	家族を含めた防災訓練や、年に2回近隣の方や地域の区長に参加してもらい、消防署の指導を受けて非難訓練を行っている。水や食事等の備蓄をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の記録がなされている。栄養管理の必要な利用者に関しては、母体病院の栄養士の全体的なチェックがされて必要な助言があり研修も行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の生け花があり、落ち着いた雰囲気にくつろげる空間がある。換気も行き届き採光や室温調整もなされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のある物が持ち込まれ、その人の思い出とともに居心地よく過ごせるように配慮されている。		